

(第三種郵便物認可)

# 鞆の景観考えよう

## 研究者ら 町並み歩き意見交換



江戸時代の家屋などが残る鞆の町並みを視察するセミナーの参加者

全国の都市計画の研究者や建設コンサルタンツら四百五十人でつくる「都市環境デザイン会議」（事務局・東京）は二十四日、港の埋め立て・架橋事業が計画されている福山市鞆町の景観を考えるセミナーを二日間の日程で始めた。

（野崎建二郎）

鞆町を会場に中国、四国、関西ブロックの会員二十五人が参加。初日は、江戸時代の港湾施設や商家が残る町並みと、埋め立て・架橋の予定地を視察した。また、架橋計画に反対する地元住民団体代表と歴史的景観について意見交換した。

セミナーを企画した関西ブロックの千葉桂司代表(63)は「古い町並みを活用したまちづくりが全国的に進む中、瀬戸内海など一体となった歴史的な景観を公共事業計画が破壊することは問題」と話していた。

二日目の二十五日は、関東地方で活動す

る都市計画プランナーとする。架橋計画の中止の野口和雄さんが「景観を求めるアピールを探観形成における公共性 押し、セミナーを締めとは」をテーマに講演 くる予定。

建築や土木、都市計画の専門家でつくる「都市環境デ

## 鞆の埋め立て・架橋 「世界的潮流に逆行」

### 専門家らが環境セミナー

「ザイン会議」のメンバー25人が24日、福山市鞆町で鞆の浦の景観について考える都市環境デザインセミナーを開いた。県と福山市が埋め立て・架橋計画を進めている鞆港周辺などを視察し、江戸期の港と町並みが一体で残っている鞆町の景観の重要性やまちづくりについて地元住民と意見交換して交流を深めた。

セミナーは、より良い都市環境づくりを目指す専門家の立場から、埋め立て・架橋計画に対して何ができるかを考

えようと、同会議関西ブロックが呼びかけ、中国、四国を加えた3ブロックが共催。この日は現地の状況を把握するため港や町並み、埋め立て予定地を見て回った。

関西ブロックの千葉桂司代表(63)は鞆の浦について「海と山の瀬戸内海の自然景観と歴史的町並み、港が一体になっているのが何よりの魅力」と指摘し、埋め立て・架橋計画については「今あるものを保全し、生かしていくという世界的潮流に逆行するもの

だ。声を上げていきたい」と話していた。

セミナーは25日まで。計画に反対するアピールも検討しており、今後も問題提起を続ける予定としている。

(松尾俊二)